校　報

忌部っ子だより

第　６　号
令和６年１１月１９日
発行者
松江市立忌部小学校
校長：井　上　孝　弘

学習発表会：１年生

残り１カ月

１１月も中旬を過ぎ、天気の良い朝は、街中や山々の色づいた木々が、朝日に鮮やかに照らされて、とてもきれいですが、「秋の日はつるべ落とし」と言われるように、夕方は、あっという間に日が暮れていくようになりました。

２学期も気がつけば、残り１カ月あまりとなりました。こどもたちも学習発表会が終わり、ほっと一息つきたいところですが、今度は、学期末に向けて、学習のまとめをしていかなければなりません。これから、今以上に寒さを感じるようになっていきます。感染症への対策はもちろんですが、風邪なども引かないよう、体調には十分に気をつけて、健康に過ごしてほしいものです。

学習発表会

１０月２５日（金）には、学習発表会を行いました。１年生は「アサガオの成長」、２年生は「まちたんけん」、３年生は「福祉に関すること」、４・５・６年は「連合音楽会での発表曲」といった内容で、これまでに学習したことや練習してきたことの成果を精一杯発表することができました。そして、その発表を多くの人たちの前で披露することで、より大きな「自信」をつけることができたと思いますので、たいへん多くの保護者及び家族の皆様にご来校いただき、大変うれしく思いました。

また、私自身、本校の発表会は初めてでしたが、この発表会の素晴らしさを感じることができました。保護者の皆様からもたくさんのお褒めの言葉をいただくこともできました。ありがとうございます。大規模校の発表会も、ダイナミックさや華やかさなど、素晴らしいと思いますが、本校の発表とは一人一人の輝きやまとまりの良さが違います。特に、１・２・３年生の発表は、一人一人がその子らしく安心して輝いていたと思いますし、４・５・６年生の発表からは、長い時間積み上げてきた集団としてまとまりの良さを感じることができました。

こうした、忌部小らしさ、忌部小の良さを活かしていくこと、これからも学校を運営していく上での柱にしていきたいと改めて感じることもできました。

２年生

３年生

４・５・６年生

忌部小学校人権宣言文

１２月４日（水）から始まる人権週間を前に、１１月１９日（火）の全校朝会で「忌部小学校人権宣言文」から「人権」についての話をしました。この宣言文は、本校の各教室に掲示してあり、毎朝、こどもたちが声に出して読んでいるものです。

宣言文からは、「自分や友だちを大切にする（人を大切にすること）」ことが「人権」であり、「人権を尊重すること」であること。そのために「言葉づかいに気をつける」ことが必要であること。そして、いつも人を大切にしていたり、いつも人から大切にされていると、人は「まちがいをおそれず　たくましく生活する」ことができるようになることを話しました。そして、人を大切にすることって、言葉づかいに気を付けることだけではないので、他にどんなことがあるか考えて、実践してほしいことも話しました。

この宣言文については、市内の小学校に同様のものはほとんどないようですので、忌部小らしく、忌部小への愛着も抱きながら、これからも、毎朝、人を大切にすることについて考えてほしいと思っています。

忌部小学校人権宣言文

わたしたち　忌部っ子は
自分や友だちを大切にし
言葉づかいに気を付けて
まちがいをおそれずに
たくましく生活することを
ちかいます。

ふるさと忌部の「ひと・もの・こと」から学ぶ

この１ヶ月の間も多くの家庭や地域の皆様のご支援を受けながら、ふるさと忌部の「ひと・もの・こと」から学ぶ機会がたくさんありました。ありがとうございました。

古墳見学

10月28日（月）、6年生は、歴史講師の宍道先生のご指導のもと、学校周辺にある客古墳や玉の森古墳などの見学を行いました。花仙山から出るメノウなどの宝石により、忌部地区は古くから栄えていたことや中央の豪族とも深いつながりあったことなど、地域の歴史をより深く学ぶことで、ふるさと忌部への思いもより深めることができる時間となりました。

ハロウィーンパーティー

10月28日（月）、4年生は、外国語活動の一環として、公民館喫茶のハロウィーンパーティーに参加しました。この日のために、パーティーの衣装を工夫したり、出し物を企画したりするなど、地域の方々と一緒に楽しむためにはどうしたら良いか考え、準備してきましたので、地域の方々と交流を深める良い機会になりました。

文化祭出店

11月3日（日）、6年生が、忌部地区文化祭に出店しました。本校が開校150周年だと知った6年生が、この機会に何かできることはないかと考え、計画・準備をしてきたのもです。本校の歩み紹介ボードの設置をはじめ、食べ物や遊び場を提供することで出店することができました。当日は、保護者の皆様や教職員の支援を受けながらも6年生でうまく運営することができ、多くの地域の皆様に喜んでいただきました。